

## 教科目名 環境計画 (Environmental Planning)

学科名・学年 : 都市システム工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
地球の限界があらわになった今世紀の日本は、政府の政策づくり、地域おこし、企業活動、市民生活などのあらゆる分野で、環境保全、破壊された自然の再生、省エネ、省資源、環境負荷の低減などに積極的に取り組み、持続可能な経済社会を構築していく必要がある。「環境計画」では、人間活動を規定している政策、法律、社会経済、技術、ライフスタイルなどの幅広い視点から計画を検討し、それが環境に及ぼす影響を考えることが重要である。以上の観点に立脚し、前半には地球温暖化防止や低炭素社会実現に向けての現状と今後の課題、環境と経済の関係について講義を行い、後半では学生諸君がまとめたレポートをもとにプレゼンテーションを実施して、環境問題解決へ各自ができることを皆で考える場を創出したい。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (d1⑤) (g)	
(1) 環境問題の過去と現在を、その背景、政策、制度等を正確に現状認識ができる。(中間試験) (2) 前半で学習する内容について、事例を調べてレポートにまとめることができる。(レポート) (3) 前半で学習する内容について、事例を調べて発表と討論ができる。(プレゼンテーション) (4) 自主的、継続的に学習できる。(レポート)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	1. 我が国の環境問題 (1) 公害の発生と地球環境の問題 (2) わが国の環境行政  2. 地球規模の環境問題 (3) 地球温暖化防止 (4) 低炭素社会  3. 環境と経済 (5) 環境税と企業の社会的責任 (6) エコビジネス (7) 水ビジネス市場	○戦前から戦後にかけての公害問題・環境問題の歴史について理解する。 ○典型 7 公害とその現状、及び地球環境問題について理解する。 ○地球温暖化防止に向けての国際社会の取り組み (COP3~COP17) について理解する。 ○エコシティ、コンパクトシティについて学ぶ。 ○環境税と企業の社会的責任について事例とともに学ぶ。 ○エコビジネスの現状や今後急速に拡大する水ビジネス市場について学ぶ。	【理解の度合い】
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14 15	後期中間試験の解答と解説 4. 事例研究 (1) 地域の環境再生  (2) プレゼンテーション  レポートについての講評	○分からなかったところを理解する。 ○日本各地で行なわれている環境再生の動きを理解し、レポートにまとめる。  ○「環境再生」についてまとめた内容をもとにプレゼンテーションを行う。	【理解の度合い】
			【試験の点数】 点
履修上の注意	本科目の修得には自主的および継続的に学習できる力が必要である。		
教科書	『環境再生と日本経済—市民・企業・自治体の挑戦』, 岩波新書		
参考図書	石井・湯沢編著, 『環境計画総論』, 鹿島出版会		
自学上の注意	教科書を事前に熟読した上で授業に臨むこと。		
関連科目	公園緑地計画, 環境システム, 都市景観学, 地域計画学		
総合評価	達成目標の (1)~(3) について中間試験, レポート及びプレゼンテーションで評価する。 総合評価 = 0.7 × 中間試験 + 0.3 × (レポート & プレゼン) 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は実施しない。		